

# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第6号

1997年(平成9年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 外崎宏司

〒150 東京都渋谷区4-4-25

電話 03-3498-5387

## 中等部五十周年をお祝いします

中等部緑窓会会長 外崎 宏司 (二期)

私達の母校、青山学院中等部が、開設五十周年の記念の年を迎えました。心からお喜び申しあげます。五十年というのは、ただならない年月です。幕末開国以来せいぜい一五〇年、近代国家の始まりとしての明治初年来なら百三〇年。その中の半世紀なのです。

この近代国家としての日本は、何回かの大きな苦難の節目を経て現代に至っています。申すまでもなく開国時の近代国家への列強五大国という肩書に有頂天になり、合わせて一挙に入り込んだ世界中の思想と大衆文化の奔流に押し流された大正時代。そして前代への反動から実力不相応な軍備拡張に走り、世界中を敵に廻して敗れ、悲惨な小国が残った五十年前。

いずれの時期にも海外からの思潮の有力な柱としてキリストの教えがありました。特に取捨不能かと思えた五十年前の混乱期に人々の心に滲通ったキリスト教が私達の学校の原点です。私達の学校はその時期に命を受けた優れた人々によつ

て設けられ、多くの人材を生み出し続けています。私達、初期の卒業生は、集まった時に敗戦後の青空の話をするのが好きです。何人かが折があると書きもしましたが、あれは確かに時代全体を覆っていた重い蓋蓋が外れて見えた青い空でした。

あれから五十年がたちました。五十年間の世界を見ることのできた私達はどうなるに幸せであることか。なぜなら、あの五十年前には男たちの平均寿命は八十歳に遠く及びませんでしたから。彼等はたった一つの若い命を国に捧げ、それから先の日本の運命を見ることはありませんでした。私達の学校は多くの人々に支えられて来ました。青山学院中等部に関わった全ての人々にお喜びと感謝を申しあげ、さらに次の五十年を支える方々に引き継ぐ時に、私達の原点であるあの青い空と、ささやかな鎮魂の思いもまた引継ぎたいと思います。

## 五十周年「緑窓会の日」 平成九年六月十四日(土)

実行委員長 細田 洋 (九期)

六月十四日(土)午後一時半から「緑窓会の日」が開催されます。今年には中等部五十周年を記念して緑窓会では何か心に残る催しにしたいと思っています。礼拝の中では佐古純一郎氏の幅広い視野からのお説教があります。そしてお茶の会では、懐しい諸先生方や、中等部時代の友人と近況をゆつくり話しあっていたり、時間をとりました。又講演会は、小椋佳氏の「一休みそして一休庵」や民謡等を予定しています。あの「シクラメンのかほり」から年月が流れ、現在はソロ活動と共に学生として思想文化科で哲学を

専攻していらつしやる小椋佳氏の御自身の生き方、人生のあり方等この機会に聞いてみたいものです。新曲も楽しみですね、どうぞ中等部の記念の年、大いに盛り上げて、お互いに懐しみ、これからの中等部に未来を夢みてはいかがでしょうか、皆様の御出席を心からお待ちしています。会場では一期から現在までの懐かしい写真も展示し、五十年記念誌の販売も致します。

小椋佳プロフィール

一九四四年一月十八日生 東京都出身  
 東京大学法学部卒業後、日本勧業銀行（現第一勧業銀行）に入行。大学時代に知り合った、詩人故寺山修司らとの交遊から、劇団天井棧敷の自主アルバム「初恋地獄編」歌で参加する。これがきっかけとなり、銀行員として勤務する傍らアルバム制作を始めることとなる。それまでの「シングル・ヒット」指向のレコード業界で、小椋の「トータル・アルバム」創りの姿勢と時代を歌う小椋の詩は、当時の若者達に受け入れられていった。  
 人前に出ない「レコード・アーティスト」としての活動だったが、一九七五年布施明に提供した「シクラメンのかほり」で一躍脚光を浴びることとなる。以来、自ら歌う作品だけでなく中村雅俊の「俺達の旅」、梅沢富美男の「夢を告ぐ」、研ナオコの「泣かせて」、堀内孝雄の「愛しき日々」、美空ひばりの「愛燦燦」などの作品で広く一般に知られるようになる。



経歴

- 1966年……詩人寺山修司のDJ番組で自作の歌を唄ったのがきっかけで、天井棧敷企画のレコード「初恋地獄編」で三曲を唄う。
- 1967年……東京大学卒業後、日本勧業銀行（現第一勧業銀行）入行。
- 1970年……銀行留学生として米シカゴ・ノースウエスタン大学に通う。
- 1975年……布施明に提供した「シクラメンのかほり」が大ヒットしレコード大賞を受賞。メリルリンチ証券NY本社・パリ欧州本部にトレーニーとして派遣され、帰国後第一勧業銀行証券部従事。
- 1987年……コンサートを東京、大阪、横浜等で開く（NHKテレビで放映）。5月、小椋佳ファミリーミュージカル「アルゴはじめての冒険」を初上演。
- 1993年……アルゴシリーズ第7弾「真夏のシンデレラ館で」全国公演。9月、26年勤務した第一勧業銀行を退職。
- 1994年……5月～初の全国ツアー。4月、母校である東京大学法学部に学士入学。
- 1997年……歌語りの舞台「一休」を（企画・原作・音楽）初公演。6月童話を元にエルダフェアリー・パフォーマンス1997「夢にくちづけ」（企画・音楽）を初公演する予定。

劇団四季、宝塚歌劇団、東京キッドブラザースなどの舞台にも作品を提供。そのほか学校校歌、会社社歌、CMソングなど多数。

銀行員としては、第一勧業銀行の本支店での要職を務め浜松支店長、本店財務サービス部長を経て、一九九三年九月同行を退職。翌年一九九四年四月には、母校東京大学法学部に学士入学し、本来の学生時代に果たせなかった問題の解決にもう一度取り組むべく学生生活を送ることとなる。

銀行を辞しての生活姿勢を本人は「テオリア（感想）」と言う。「テオリア」とは古いギリシャ語で「Theater（劇場）観る」や、「Theory（理論）」の語源となった言葉で、日本語では「観想（よく観て、よく想う）」と訳されている。時代を観、自分を見つめ、想いを広げて、人間の根本のところから考え直してみたいと言う。この年七月、音楽仲間からすすめめもあって七年ぶりのオリジナルアルバム「テオリア〜観想〜」を発表。また、このアルバムのお披露目の意味も含めて、初の全国コンサートツアーを実施した。

一九九五年三月、学士入学した法学部を一日卒業。初めてのアルバム制作から二十五周年目を迎えるこの年、前年に引き続き全国コンサートツアー「テオリアⅡ〜A Quarter Century 夢のつづき〜」を実施。

一九九六年四月、一年間の受験勉強の甲斐あって、東京大学文学部思想文化学科哲学専修課程に学士入学を果たす。全国コンサートツアー「ことなり」を実施。舞台制作としては子供中心のミュージカル「アルゴ」が十周年をむかえる。

一九九七年一月、新たな試みとしてうたの原点である「語り」と、歌の味わいを深める「こぼし」を表現の中心に据えた歌語り舞台「一休」が東京・大阪で公演され好評を得る。六月、公募の創作童話を原案としたエルダフェアリー・パフォーマンスも新たにスタート。七月、小椋本人のツアーコンサート及び、十一年目を迎えるアルゴ・ミュージカルも実施される予定。

同期会

昨年、緑窓会の日々の幹事期となった八期では、プログラム終了後、夕刻より青学会館に於いて久々の同期会を催しました。

八期 武田 崇子

原田先生、田中先生、平間先生、大島先生（旧姓久保）をお迎えして、すっかり中等部生気分に戻った総勢六十人程の立食パーティーは賑やかに楽しいものとなりました。先生方には、それぞれクラスメイト達から推された「一番可愛い女の子」又は「一番可愛い男の子」の手で、にぎにぎしく花束が贈呈されました。お元気で若々しく活躍の先生方のお姿は、五十路を越えた教え子達の目に、今も心強い良きお手本として、まぶしく映りました。続いて、各クラスの代表の近況報告に互に興味深く耳を傾けました。特に盲人のための奉仕活動をしていらっしゃる太宰さん、ルーマニアのエイズの子供達のための募金活動をしていらつしやる石坂さんのお話しに、一同心をうたれました。即席の献金袋が回され緊急援助のお手伝いに参加させて頂くことも出来ました。「青山学院で育って良かった」と、幸せな思いを胸に散会となりました。

## 「緑窓会の日」 開催報告

一九九六年実行委員長

山本千紗子(八期)

他委員一同

一九九六年「緑窓会の日」は例年通り、原点、祝祭、継続のテーマのもとに、六月八日(土)青学講堂に於て開催されました。中等部の同窓生が母校に集い、諸先生方や諸先輩後輩と共に礼拝の時を持ち、楽しい語らいのひとときをすごせる「緑窓会の日」も、七回目を迎えることができました。

本年の礼拝は、四期生でもいらっしやいます高橋敬基先生の説教「キリストのかおり」(コリントの信教への手紙から)を聞かせていただきました。有意義なお話しを心に暖めながら、礼拝の後に、短大地下食堂にてティータイム、いつもの事ながら、あちこちに楽しい輪が出来て笑い声のたえない一時間はアツという間でした。気持ちを新たに、静かなクラシック音楽が、八期の黒田さんと十二期の近重さん所属の「梓アンサンブル」によって演奏され、最後に聖路加国際病院院長 日野原重明先生の講演。ご高齢にもかかわらず(と言っては失礼なのかもしれません)時間を延長してのお話しを、先生の言葉は一言も聞きもらすまいと思うほどに、真剣に耳を傾け、そして、先生の楽しいジョークに声をあげて笑い、ほのほの暖かい講演をしていただきました。皆さん「これからもがんばるぞ」という気持ちになって家路につかれた事と思います。

礼拝の時の献金は例年通りタイのハンセン氏病の救済組織である「チャンタミット」に寄付されました。又ケニヤのデイスター大学の図書館建設への協力ということでTシャツを販売させていただきました。この場をおかりして皆様にお礼申し上げます。

今回も実行委員ばかりでなく多くの緑窓会会員の協力によって、無事に終わりました。ありがとうございました。



## 「緑窓会の日」出演をふり返って

八期 黒田明子

昨年同期の山本(旧姓神谷)さんから、私に出演の依頼があった時大変びっくりしたものでした。私は卒業生とは云うものの同窓会にはあまり関心がなく、どのような催しを緑窓会で行っていたかも知らなかったからです。

それでも山本さんからの依頼ならとも簡単に引き受けたものの、話を進めてゆくうちに過去には現在日本で活躍中の有名な方々の出演者ばかりで、私の所属しているアンサンブルは全くの無名、とんでもないことになってしまったと思ったものでした。しかし、同期の方々のおおしみな緑窓会への仕事ぶりに、打ち合わせの回を重ねる度に感心しつつ、今迄全く無関心だったことを反省し、この機会に精一杯お返しをしないでほしい、アンサンブルの仲間にも協力していただいた次第です。

曲目はレスピーギ、チャイコフスキーの弦楽セレナーデ、モーツアルトのディベルタイメントとアイネクライネなどなるべく皆様に親しまれているものを選びました。クラシック演奏では演奏者とお客様が一体となって楽しんでいただける曲を選ぶことが難しいものがあるので、本当はもっとポピュラーなものを演奏して欲しいとの要望でしたが楽しんでいただけただけでしょうか。

指揮者をはじめメンバーの皆さんはいろいろな場で活躍しておられる方々ですが、同窓会での演奏ははじめてで、卒業生が丸となって礼拝、演奏会、講演と大変にすばらしく、又羨ましいことだと申しておりました。同窓会の皆様の上下の関係がこのようにスムーズに行われているということは、自分のことよりも人の為に尽くすという青山ならではのことでないでしょうか。

同期の山本さん、鳥居さん、門田さん、武田さん、その他多勢の方々の御努力の結果無事に演奏ができたこと心より感謝申し上げます。

緑窓会名誉会員伊藤信夫先生が一月二十八日、七十三才の生涯を終えられました。前夜祭及び葬儀は、青山学院大学の礼拝堂にて行なわれました。突然の悲報にもかかわらず、青山学院関係者、中等部緑窓会会員など多くの参列者が集まり、悲しみの中お別れの献花をしました。

先生との思い出が沢山ある多くの方の中からお二人の方に、先生との思い出を語っていただきました。伊藤先生の生前を偲びご冥福を心からお祈りいたします。

## 伊藤信夫先生追悼の辞

平塚秀夫 (二期)

伊藤信夫先生は去る一月二十八日早朝七十三才の生涯を終えられました。今から五十年前、先生から教えを受けた者としてお別れの言葉を述べさせていただきます。

先生は毎朝行われた礼拝でピアノやオルガンでバッハなどの曲を奏楽として弾かれ、先生の伴奏で讃美歌を歌いました。先生はそれらの美しい音楽を通してキリスト教の愛のすばらしさを教えて下さいました。これは私達のその後の歩みにつけがえのない貴い教育でした。

同窓生からは多方面にわたり活躍する人々が社会に出ましたが、とりわけ先生のよい影響を受けて日本を代表する音楽家が多数輩出したことは特筆すべきことと思います。私達もそれを誇りに思っております。

私は高等部卒業後、医学の道に進みましたが、丁度医学部を卒業して医師になった年に、先生は消化器系の病気になるられ、私の大病院で手術を受けられました。三十五年前のことでした。以後先生のご健康のことについては至らずながらご相談を受けながら今日に至りました。私にとって先生は恩師であることは当然ですが、医師として最初から最も長い間お任せさせて頂いたことになりました。

先生からは家族の一員のように可愛がって頂き、先生が心から愛された蔵王のスキーに



は何回も御一緒させて頂きました。中等部の修学旅行には医師として付添って行く機会を与えて下さいました。文化祭には後輩に講演する機会を与えて下さいました。私と同じように、青山ファミリィとしてお世話になった同窓生も多数おられることと思います。先生はこよなく雪山を愛され、思います。先生はこよなく雪山を愛され、スイスにもう一度行きたいとの強い願いをおもちでしたが、またその為に八期生の整形外科医関寛之先生達が付添って行って下さるという話までになっておりましたが、その直前ご容態が急変

し、懸命の治療も空しく遂に亡くなりました。

先生は真に柔和な方でした。平和で優しい先生でした。私は人の心のあり方、真実の愛のあり方について、先生のご生涯を通して学びました。人間的な悲しみは限りなくこみあげて参りますが、すべては神のご計画のうちにあると思います。どうか神の御許で安らかに眠られますようお祈り申し上げます。

最後に先生が好まれたブラームスのドイツレクイエムは、「悲しんでいる人たちはさいわいである。彼らは慰められるであろう」という歌詞から始まることを思い出します。深い悲しみのうちにある御家族の皆様、特に長い間献身的な看病をされた奥様には神の深い癒しと慰めがありますようお祈り申し上げます。

## お別れの言葉

鈴木康生 中等部十二期卒業生

伊藤信夫先生、お元気になられたとお聞きしておりましたのに、突然の訃報にびっくりしております。

私共十二期生も伊藤先生にお世話になった中等部を卒業して三十六年の歳月が流れました。

でも、先生にお会いしたときはいつも私たちは中学生に戻ります。先生も、例えお体の調子が優れなくても、お話ししていくうちに当時の若さをどんどん取り戻し、元気に威勢良くなられるのを楽しみにしておりました。

私事になりますが私も母を昨年なくしました。通夜の席に最後まで残って頂き、明るく励まして頂いたのが昨日の様に思い出されます。

私自身は先生の家族に暖かく迎えられる、夏の八甲田へ、福島へ、千葉の海へ当然冬のスキーへと毎年連れて行って頂いた思い出はつきることがありません。

また近い内にお会い出来て、皆で良く連れて行って頂いた蔵王のスキーやら、中等部の古い校舎での我々のいたずらを大目に見ていただいたことなど、懐かしい思い出を心行くまでお話しできるものと楽しみにしておりましたのに本当に残念です。

それにしても今振り返りますに、青山学院中等部時代の楽しかった事、先生が担任としてご指導頂いたことが私たち人生にこんなにも明るい、暖かい気持ちの心を残してくれたことは先生が先生と言う職業を越えて私たちに接して下さった賜物と心から感謝しております。

今、先生の顔を思い浮かべ、あの古い中等部の校舎の黒板の前に重ね合わせますと、先生のご葬儀の時でさえ不謹慎ですがなぜか心が暖かくなるのです。

クラス全員が卒業最後のスキーに参加するなど、前代未聞だと思えます。それが先生の暖かさだったと今ここにしみじみと思ひ起こされます。中等部の仲間が今でも親しくつどえるのも先生に暖かくご指導頂いたお陰です。

私たちに沢山の暖かい、明るい、楽しい思い出を作って頂いた伊藤信夫先生、どうぞ安らかに眠り下さい。

青山学院中等部緑窓会役員名簿

役名	期	氏名	旧姓	役名	期	氏名	旧姓	役名	期	氏名	旧姓	役名	期	氏名	旧姓
顧問	1	飯久保廣嗣		運営委員	10	中野 凱美	窪寺		23	増田 幹子	笠原		38	池谷 幸子	
顧問	1	余語 悦子	宮治	運営委員		梅津 宏子	山本			新海 潤子	飯島		39	斎藤 克彦	
会計	1	岡田 孝子	中村	評議員	11	岸本 英雄			24	神保 行宏			40	土屋 純子	
		木畑 昌長				熊沢 祐子	鴨志田			佐藤久美子	福永			栗城 裕明	
		奥平 トヨ	坂本	会計監査		木村 敏夫			25	上条 浩之				山下 昌子	
評議員		河野 誠一			12	荒井 宏二				田部井圭子			41	地主 武史	
会長	2	外崎 宏司				内山 マス子			26	安藤 直道				森下 亜希子	
		原田賀世子	山下			小野 令子	実宝			渡会友佳子			42	渡辺 莊	
		片岡ゆり子	井上			村井ふたば	岡		27	前川 静子	岡田			岡崎 晴子	
評議員	3	飯村 肇			13	中川 光子				山田美奈子	石堂		43	濱本 健吾	
		阿部 義夫				長谷川祐子	福井		28	鈴木 淳雄			44	永岡 寛子	
		田中 和子	三木	会計	14	松田 百代	三浦			仁科 広美			45	高木 麻衣	
		三上 良治				黒沼 健				阿部 直子				篠原 大	
評議員	4	志賀 俊也				山形 政弘			29	木村 昌一				古池 律子	
評議員		岩嶋恵美子	徳永		15	斎藤 博				小田 文信				相川 恵	
		黒板美瑛子				吉田 恵子	原田		30	藤本香緒里	林田		46	加藤 惣太	
副会長	5	堅村美恵子	木田		16	大野 恵子	村上			高橋 知也				石崎 舞	
運営委員		柴田加代子	渡辺			脇田 清司			31	井伊 長史				鈴木 順子	
		吉川 勝久			17	真藤 純一				鈴木 貴子			47	有坂 太一	
		三上信二郎				高口 恒美	村田		32	大森 寛子				有我 菜穂	
副会長	6	白井 茂				山田 明男				西村真知子					
運営委員		岩永 晴美	谷村		18	小平 昌邦			33	飯田 明子	林	学校連絡		石出 道雄	
運営委員		小林由美子	伊井			西本由里子	高橋			木村実花子	今井				
	7	山本 秀雄	鄭		19	竹内 利明			34	竹脇 清子					
		倉持 皓子	山根			西 千佐子	石塚			鹿島 衣織					
		磯野 博子			20	古野 啓子			35	藤木 優子	和田				
広報	8	鳥居 照子				高木那津子	岩崎			戸村 大助					
広報		門田美智子			21	杵家 弘和			36	宮永 えり	松沢				
	9	細田 洋				寺野 尚子	戸田			斎藤 紀夫					
運営委員		王尾 京子	原田		22	平森 均			37	関 景介					
運営委員		町田 洋子	竹崎	運営委員		木村眞喜子				清水 千恵					
	10	今村 和子				富士野ゆかり	佐々田		38	深谷 隆介					

1996 (平成8) 年度収支計算書

青山学院中等部緑窓会

収入の部	
科目	金額
会費収入	
1996年度入会金	819,000
273名分	
維持会費	2,599,000
諸収入	
預金利子	54,062
雑収入	10,000
(小計)	3,482,062
前期繰越金	4,872,831
合計	8,354,893

支出の部	
科目	金額
会費	535,284
報費	1,129,347
報費	347,023
報費	42,170
報費	73,507
報費	118,520
報費	54,056
報費	12,000
報費	76,000
報費	76,650
報費	39,303
緑窓会の日補助金	377,947
(小計)	2,881,807
前期繰越金	5,473,086
合計	8,354,893

以上の通りであります。

青山学院中等部緑窓会  
 会長 外崎 宏司  
 副会長 堅村 美恵子  
 会計 白井 茂  
 監事 三上 信二郎  
 事務 田中 加代子  
 事務 吉川 勝久  
 事務 三上 良治

中等部便り

石出道雄 (中等部教諭)

★教職員の移動  
 今年三月で退職された教職員です。  
 ＊石井道夫先生  
 一九九二年に聖書科教諭・宗教主任としてまた  
 一九九四年より教頭として勤められました。  
 ＊佐藤文則先生  
 一九六一年に技術科教諭として、また一九八六年よ  
 り教頭として勤められました。  
 授業・合宿等での手のひらの感触を忘れられない卒  
 業生も多いと思います。  
 ＊浅井義雄先生  
 一九六一年に国語科主任として、また一九八五年よ  
 り教頭として勤められました。  
 一九八九年より高等部で国語を担当されてました。  
 ＊狩野美江さん  
 一九四六年より用務員と  
 して勤められました。  
 一期生から五十期生まで  
 知っている、中等部では最  
 も長期勤められた方だ  
 す。



石井道夫先生

★中等部五十周年記念誌  
 『中等部の五十年』とい  
 う記念誌を発行します。  
 一期から五十期まで、全  
 ての期のページがあり、  
 楽しく読める本になりま  
 した。  
 表紙は、三十一期の堀川  
 理万子さんのデザイン  
 で、『中等部らしさ』を  
 感じさせる優しく・美し  
 い花で飾られています。  
 予約受付中です。詳細は  
 緑窓会事務所でご連絡  
 ください。



佐藤文則先生

★中等部創立五十周年式典  
 左記の通り、中等部主催の創立記念式典を行ないま  
 す。卒業生のご出席も歓迎いたします。  
 日時 四月二十六日(土)  
 午前九時三十分  
 場所 青学講堂

宗教主任 坂上三男先生  
 教務主任 金子琴江先生  
 指導主任 山本与志春先生

### 金原先生の米寿を祝う会



金原先生が米寿を迎えられ、そのお祝いの会が二月十五日吉祥寺第一ホテルで六期生七名、十期生二十名と武田先生もご参加下さり盛大に開催された。子供のおられない先生にとつて私達はいつまで経っても実の子供のような存在。久しぶりに集まったやんちゃ坊主におてんば娘達は、何のお祝いの会だったかも忘れて？久しぶりに楽しく、なつかしい一日を過ごしたのでした。先生もお元気で又卒寿には会いましょうとお別れました。  
(十期田坂)

### “ありがとう 狩野美江さん”



卒業生誰もが一度はお世話になった狩野さんが此の度勤続四十九年(中等部では最長勤続者)をへて退職なさることになりました。昭和二十三年五月一日、当時は一期生と三才しか違わない年で給仕さんとして中等部に就職されました。生徒達とは田淵先生の朝顔畑と一緒にお世話したり帰路を共にしたり、家に帰っても近所の生徒と友達のように楽しい毎日をご過ごされたそうです。五年前に頸椎症で入院し手術され足が不自由になりながらも勤め上げられました。

先生方の信頼も厚く、昼食のお世話など細かく、心を配られ、貴重な存在の方が学校を去られるのは淋しいかぎりです。今後は一層健康に注意され“緑窓会の日”は元気な顔を見せて下さるのを楽しみにしております。長い間ありがとうございました。

緑窓会副会長 堅村記

### 事務局だより

副会長 堅村美恵子 (五期)

会員の皆様、各期の委員の方々のご協力を得て、毎週火曜日、午後一時より四時半迄、ウエスレーホール(東門横)三階にて事務局を開いております。折しも今年には中等部創立五十周年を迎え、六月十四(土) 緑窓会の日 準備に活気をおびて参りました。当日は石出先生のご尽力により、一期から今年度迄の各クラスの卒業写真が展示されます。これはその年月を感じる楽しく興味深いものがあります。是非ご来場の上ご覧下さい。事務局も今年には名簿の整理など、より正確にと、日々向上を計って努力しておりますので、ご本人、ご友人の住所変更がございましたら、左の電話番号又は事務局宛先までご連絡お待ちしております。

緑窓会事務局 一五〇渋谷区渋谷四一四一二五

電話 〇三三四九八一五三八七

### 「維持費納入のお願い」

会計 岡田孝子 (二期)

昨年平成八年は、四年に一度(オリンピックの年)の維持会費の払込みの年でした。一一八九六名の会員に振込用紙を同封いたしましたが残念ながら一〇%にも満たない一一一九名のみ振込みがありました。この様な状態ですと運営にも支障が出てきます。これから消費税のアップや郵送費の値上げ等の諸経費の増加も見込まれます。会費をアップさせずに会員皆様の協力により運営出来るようがんばっています。同封されています用紙をご覧になって「未払い」となっていましたら、すぐに振込んで下さいます様、協力をお願いいたします。

維持会費は四年で二千元です

今、中等部五十年史の発行にあたり緑窓会の役員全員、学校と共に協力してがんばっています。五十年史の申込みもまだの方はお急ぎ下さい。会員各位のご協力を心よりお願いいたします。

## 木村千恵子先生(旧姓林)の脚本で

木村先生は中等部専任教師及び講師として通算二十年近く在職された訳ですが、その木村先生が以前からライフワークとして万葉集、古事記、日本書記等の研究をされていきました。この度、古事記、日本書記の中から題材で夫々、オペラとミュージカルの脚本を木村先生ご自身が書かれそれが来年(平成10年)3月に府中の森芸術劇場にて上演される事になりました。日期生を中心にチケットの購入等で少しでもご協力が出来たらと考えてはおりますが、実際にはそれだけでは不足する部分も多く、企業にスポンサーとして参加していただきたいというご希望もある様です。緑窓会の皆様のご協力を是非お願いしたいと思います。

### 二十一期生杵屋廣吉さんが

長唄宗家 七世杵屋勘五郎を襲名されます

— 平成十年三月一日 —

二十一期生の杵屋廣吉さんが現在の父上の名跡勘五郎を襲名、父上は改名(改名後の名跡は未定)し、又お子さん達、四人(青学初等部三名、青学幼稚園一名)の初舞台と三つもお目出たい事が重なった改名、襲名、初舞台記念演奏会を来年三月一日、国立劇場小ホールにて開かれるそうです。入場料は無料で坂東玉三郎さん(父上のお弟子さんとの事)がゲストで踊ってくださいるそうです。

杵屋さんはこの舞台を青山学院関係の方々でいっぱいにして祝っていたきたいと願っているそうです。皆さんでお祝いにつけましよう。

### 初等部60周年

初等部では緑ヶ岡小学校から数えて開校60年になる本年11月22日(土)に記念式典を計画しています。又60周年を記念して10年振りに名簿を発刊する事になり、今現在懸命に準備をすすめております。

又同日付にて青山学院初等部同窓会が発足する事になりました。発足記念総会及びパーティーは11/22PM4:30より赤坂プリンスホテルにて開催されるそうです。

### 第4回大学同窓祭

9月23日(祝)

#### 於青学キャンパス

本年は第4回目となりますが、ベギー葉山さんの唄と森村誠一さんのお話を中心に例年通り楽しい一日を過ごしていただける様目下計画を練っている最中との事、9月23日が楽しみですね!!.

### 記

上演予定は 平成10年3月20～22日  
(4ステージ)

上演場所 府中の森芸術劇場  
ふる里ホール

演目★オペラ「影媛」一幕四場  
(日本書記より)

★ミュージカル「ヤチホコ」  
一幕二場

(古事記より)

スタッフ 脚本 木村千恵子

音楽 (作曲、指揮)

中島良史

演出 永井寛孝

オペラ・ミュージカル上演

緑窓会の日にかかれる同期会のお知らせ

14期 6月14日「緑窓会の日」の礼拝で、清瀬雅子さんがオルガンを弾いて下さる事になりました。14期生は奮って礼拝に出席しましょう。また「緑窓会の日」終了後はちよっとした「おしゃべり会」を予定しています。(松田)

10期 同期会開催のお知らせ!  
久し振りの同期会  
10月25(土)午後6時より  
青学会館で開催致します。  
追って御案内を差し上げます是非、御参加下さい。

4期 4期生の会を開きます。  
6月14日(緑窓会の日)(土)  
午後6時より  
(場所は後日連絡します)  
出席希望者は岩嶋まで  
申込んで下さい。  
世話人 海老原 祐一  
岩嶋 恵美子

28期 『28期同期の集い』  
日時 6月14日(土)  
午後6時30分より  
場所 青学会館  
シノノメ  
幹事 三枝裕政  
山本和子  
後日ハガキにて通知します。

21期 6月14日(土)緑窓会の日  
終了後  
6:30pm頃より  
セビア(杉崎君のお店)で  
同期会をいたします。  
杵屋・寺野(戸田)

19期 『19期同期会』  
日時 6月14日(土)  
午後6時30分より  
場所 霞ヶ関東京会館  
(霞ヶ関ビル35階)  
幹事 西 千代子  
竹内 利明

「青山学院中等部の五十年」の刊行

「五十年史」 緑窓会編集委員会 木畑昌長(二期)

六、三制が始まって、今年で五十年になります。ということは、中等部が始って五十年たったということです。学校側から、中等部五十周年記念事業として「五十年史」を発行するとのお話を受け、緑窓会は全面的に協力することにしました。二十年前の「語りつく青山学院中等部の三十年」を更に補完して、正確な歴史を後世に残そうと、編集委員会を発足させ、中等部編集委員の先生方と度重なる打合せを行ってきました。

昨年以來、各期常任幹事各位を中心に「各期の頁」や、古い資料や写真の提供、昔の出来事の聞き取り、「中等部誕生」執筆、座談会のテープ起こしなど、協力をおねがいしてきました。

何分、一年間という、出版としては短い期間でありましたために、十分なことのできない恨みは残りますが、なんとか本の形が見えてきました。購入予約も、緑窓会担当分は、完売になる日も近いようです。まだ予約をしていない方は、お早目にお申し込みください。

過去を見つめないものに、未来はない、といえます。「青山学院中等部の五十年」を機に、母校が限りない発展をとげますよう。緑窓会として見守りたいと思います。